

第3項 フクロウ

3 - 1 調査概要

評価書の調査において確認した特筆すべき陸上動物のフクロウの追跡調査を実施した。

3 - 1 - 1 調査日時及び調査内容

調査は表8 - 4に示したとおり、平成13年4月から6月及び平成14年1月から3月にかけて実施した。

表8 - 4 調査日時

調査回	調査日	調査時間	調査内容
第1回	平成13年4月17日	17:00～21:00	フクロウ生息確認調査
第2回	平成14年1月18日	17:00～21:00	
第3回	平成14年2月15日	17:00～21:00	
第4回	平成14年3月8日	17:00～21:00	

3 - 1 - 2 調査地点及び調査方法

調査は、評価書の調査で本種の飛翔等を確認した場所を中心に計画地内を広く踏査する任意観察により実施した。

なお、調査地点は図8 - 5に示したとおりである。

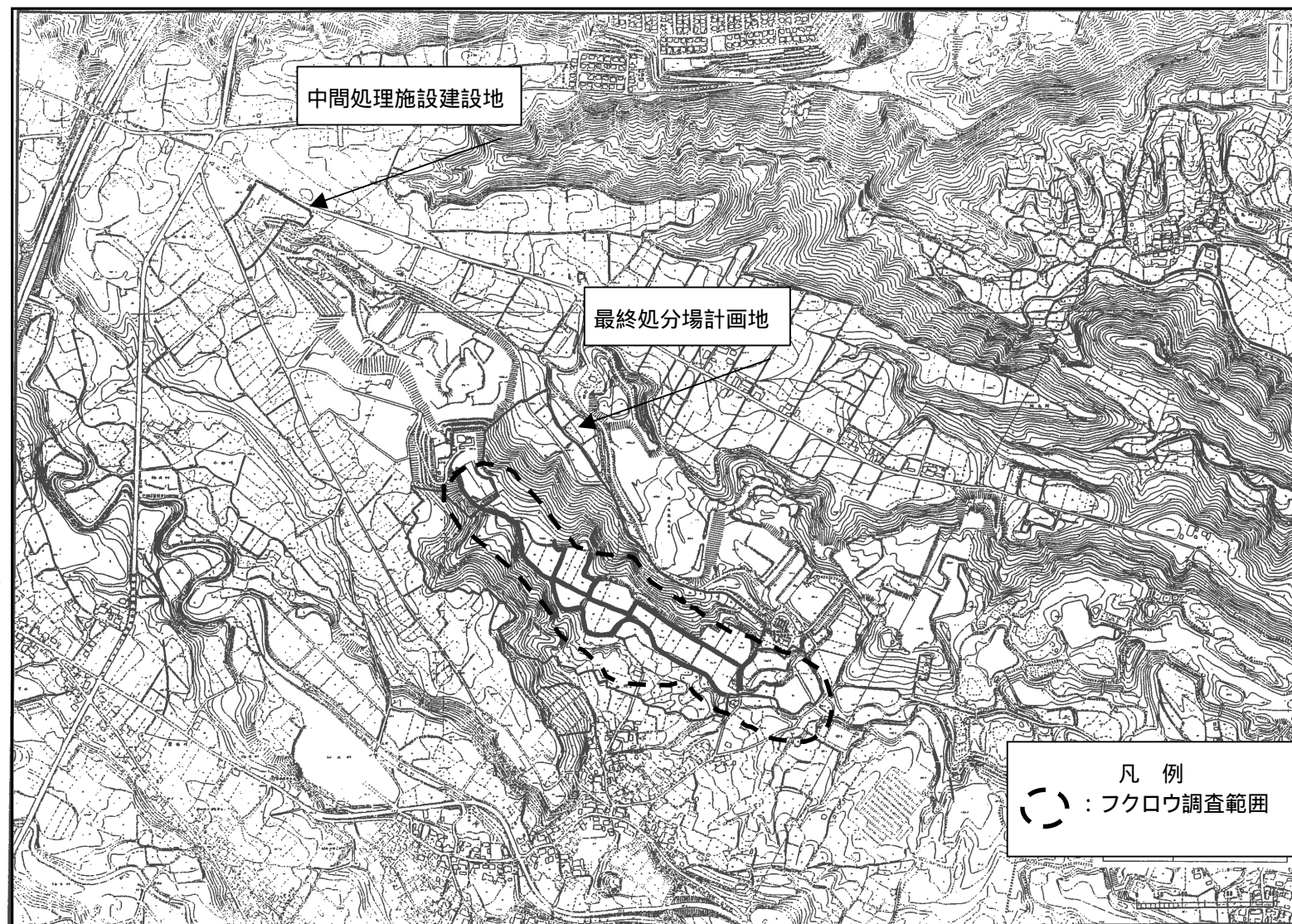


図8 - 5 フクロウ調査地点

3 - 2 調査結果

調査の結果、表 8 - 5 に示したとおり、本種の鳴き声を 3 例確認した。

鳴き声を確認した場所を図 8 - 6 に示した。

表 8 - 5 フクロウ確認状況

	年月日	時間	雌雄・成幼	確認状況
1	平成 13 年 4 月 17 日	19:24 ~ 19:25	・ 不明	最終処分場計画地の西端側で「ホッホー」と 3 声続けて鳴き声を確認した。
2		19:39	・ 不明	「1」と同様の場所から、「ギャー」と 1 声鳴き声を確認した。
3		19:46 ~ 19:47	・ 不明	「1」と同様の場所から、「ギャー」と 4 声続けて鳴き声を確認した。

3 - 3 まとめ

調査の結果、本種を鳴き声により確認した。

しかし、最終処分場計画地の北側には四日市市の南部処理場があり、ここを餌場としているハシブトガラス及びハシボソガラスが本地域周辺を生息環境として利用しており、猛禽類の進入する余地がないことと、計画地及びその周辺の森林には、本種の繁殖地となる樹洞のあるような大径木は見られないことから、本地域の繁殖地としての利用はないものと思われる。

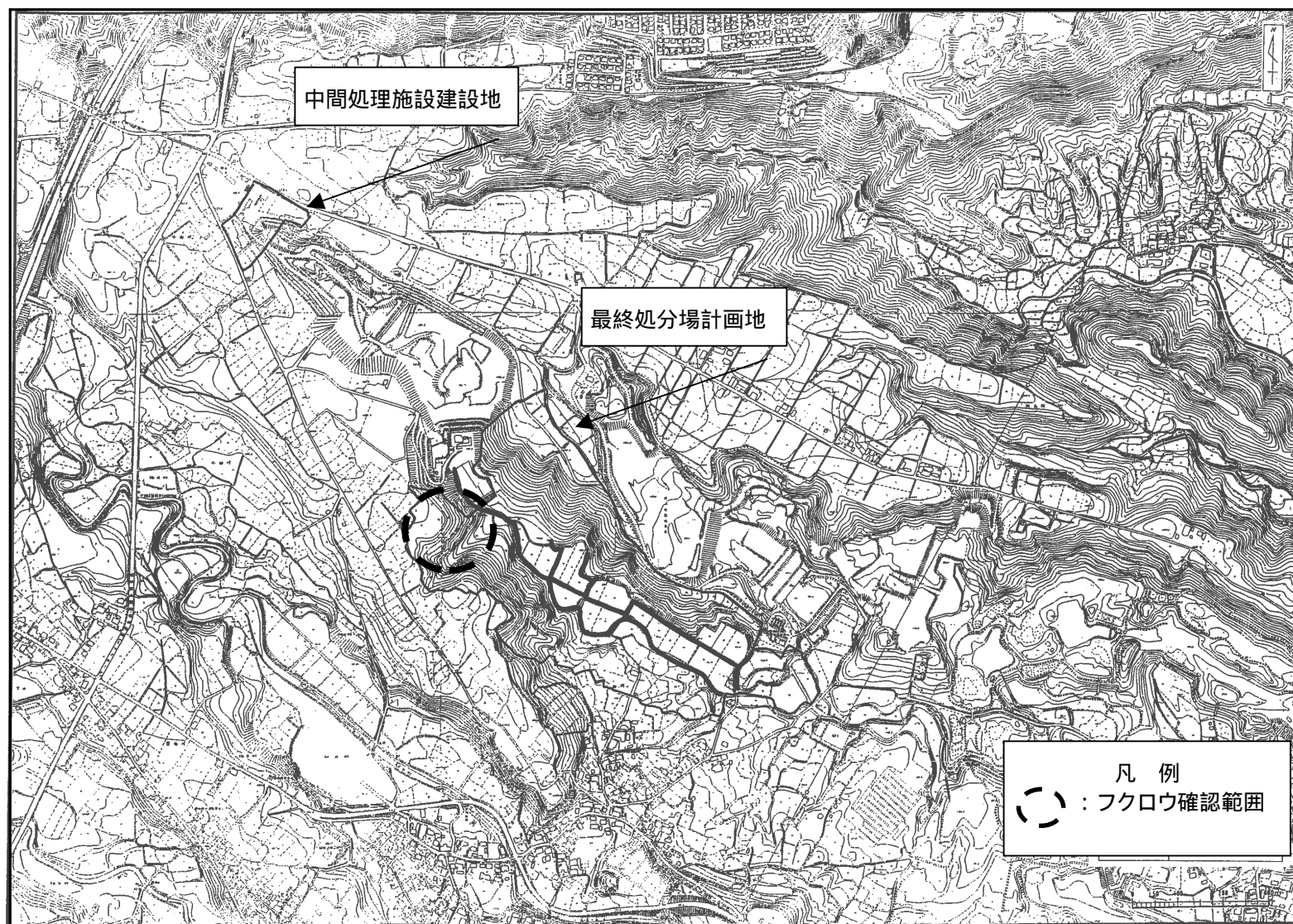


図 8 - 6 フクロウ調査地点

第4項 ハルゼミ・トゲアリ・ムカシヤンマ

4 - 1 調査概要

評価書の調査において確認した特筆すべき陸上動物のハルゼミ、トゲアリ、ムカシヤンマの追跡調査を実施した。

4 - 1 - 1 調査年月日及び調査内容

調査年月日及び調査内容は表8 - 6に示したとおりである。

表8 - 6 調査年月日及び調査内容

調査対象種	調査年月日	調査内容
ハルゼミ	平成13年5月7日	任意観察調査
トゲアリ	平成13年5月7日	
ムカシヤンマ	平成13年6月8日	

4 - 1 - 2 調査場所

調査は、評価書の調査で本種を確認した場所を中心に行った。

なお、主な踏査ルートは図8 - 7に示したとおりである。

4 - 1 - 3 調査方法

調査は調査範囲内を任意に踏査する任意観察により行い、対象種の確認に努めた。

なお、ハルゼミについては、本種の鳴き声を録音したテープの再生により共鳴させる方法で生息の確認に努めた。

4 - 2 調査結果

調査の結果、図8 - 8に示した地点においてムカシヤンマ1個体を目撃した。

また、ハルゼミ、トゲアリは確認することはできなかった。

4 - 3 まとめ

今回の調査の結果、調査対象とした3種（ハルゼミ、トゲアリ、ムカシヤンマ）のうち、ムカシヤンマの他は確認することはできなかった。

生息を確認した現況調査当時と比べると、ハルゼミについては、生息に不可欠なアカマツのほとんどが枯れていることから、今後も生息を確認することは難しいと思われる。

また、トゲアリについては、生息確認地点の環境が大きく変化していないことから生息している可能性はあると思われる。

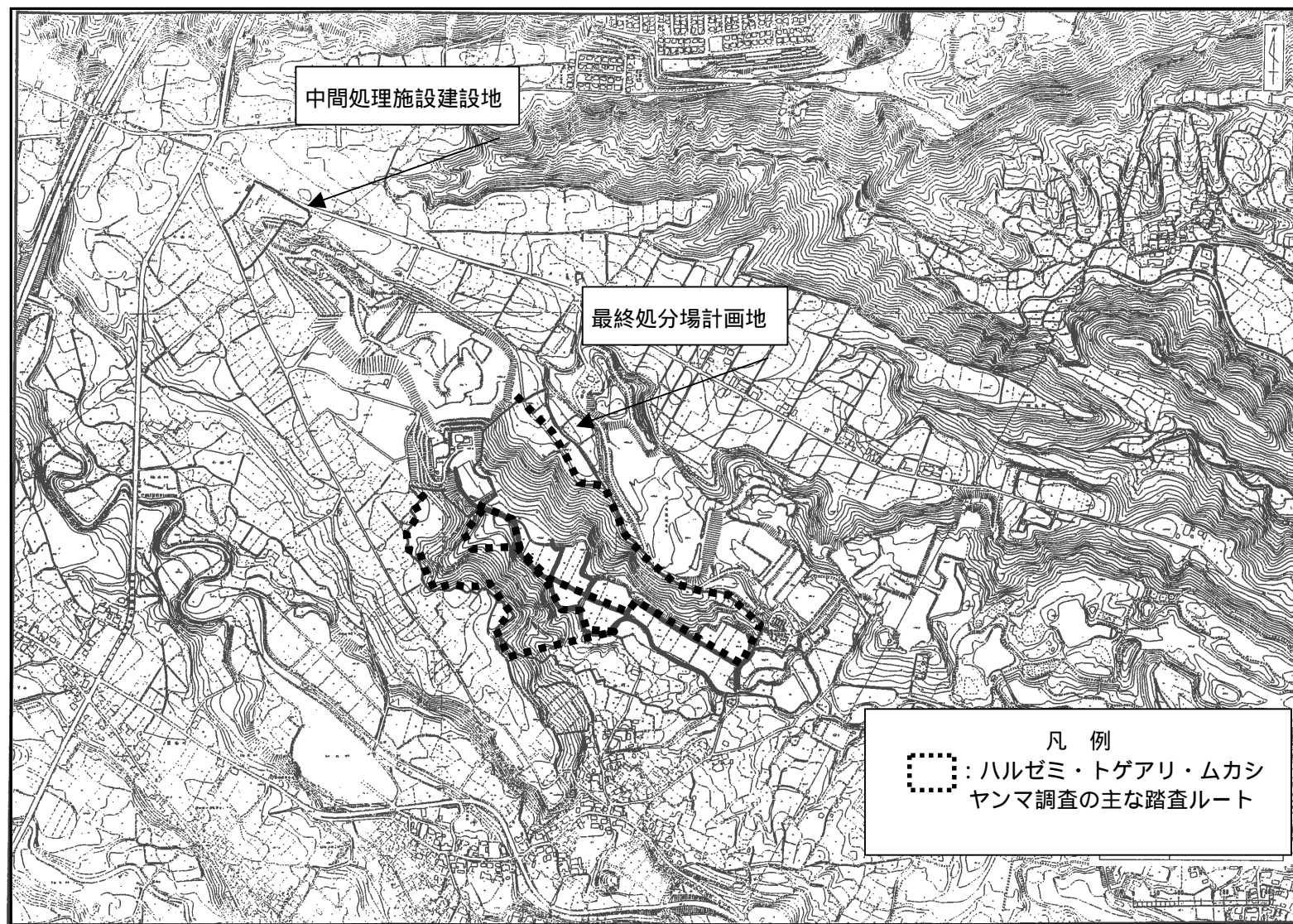


図 8 - 7 ハルゼミ・トゲアリ・ムカシヤンマ調査の主な踏査ルート

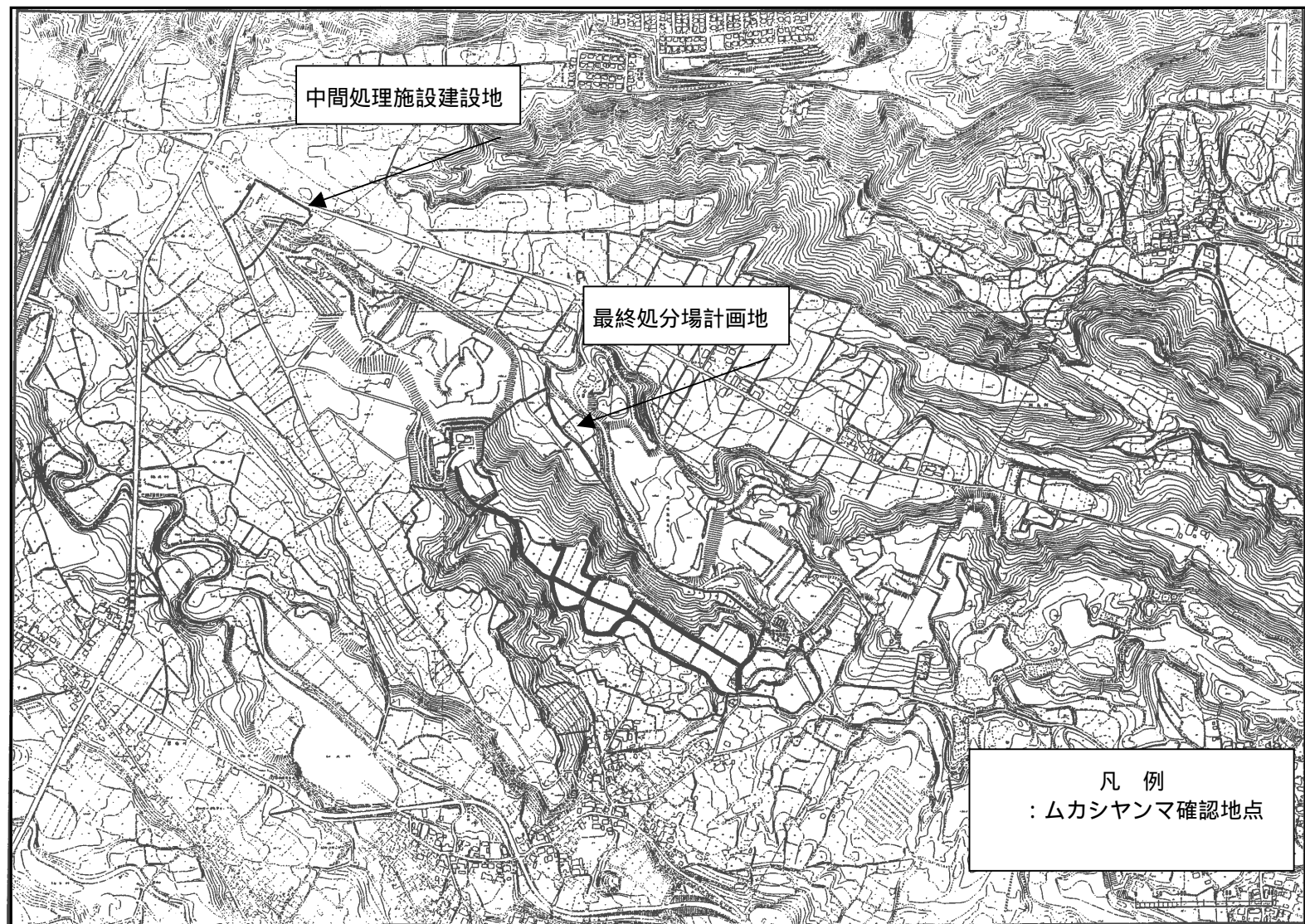


図 8 - 8 ムカシヤンマ確認地点